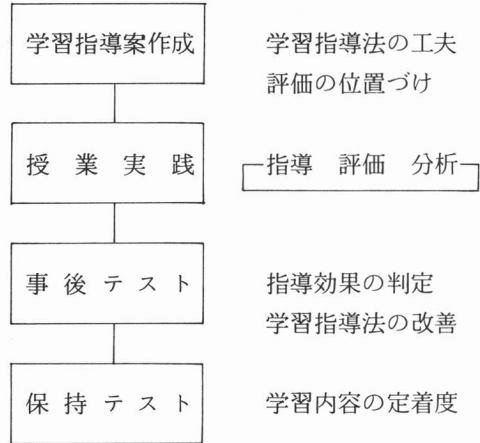
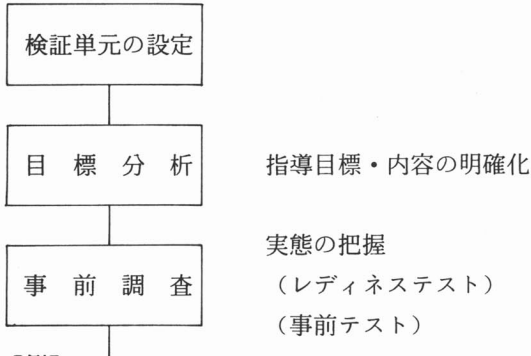


4. 学習指導における「S-P表」の位置づけ

S-P表を学習指導に活用する場合には、前提として、的確な実態の把握と目標の分析が必要になる。これらをもとに授業の設計がなされなければならない。さらに、学習の過程のどの段階で「S-P表」を活用して学習指導法の改善を図るかということもあらかじめ想定し、指導計画を作成することが必要である。

(1) 基本的な考え方



(2) 指導計画への位置づけ

以下に小学校5年の社会科の事例を述べることにするが、これは特に、指導計画の追究段階における学習について「S-P表」による分析を重視し、学習指導法の改善を図るという試みで実施したものである。

【例】

小学校5年 「わたしたちの生活と工業」(2)自動車工業のさかんな都市 指導計画(総時数11時間)

小単元の構成	段階	指導の要点	時間
<p>自動車工業のさかんな都市</p> <p>自動車生産の割合</p> <p>自動車の「フルフル」→ 自動車保有台数 (4797万台) ← 免許所有者数 (4992万人) ← 国内生産台数</p> <p>自動車工場では買う人の好みに合わせしかも大量に生産するためにどのような工夫をしているのだろうか</p>	課題把握	<ul style="list-style-type: none"> ○自動車生産台数が世界で一番多く、国内ではトヨタの生産が多いことを資料を通してとらえさせ、大量に生産されている事実についての認識を深めさせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・自動車が生産されていることを資料からとらえる。 ・豊田市の様子をとらえる。 	1
<p>自動車工業のさかんな豊田市</p> <p>組立工場での生産の様子</p> <p>関連工場と結びつき</p> <p>関連工場の仕事と働く人</p> <p>自動車工場と地域の変化</p> <p>よりよい技術の開発</p>	学習計画	<ul style="list-style-type: none"> ○豊田市にある自動車工場では、消費者の要求を満たし利益を得るために、どんな工夫や努力をしているかを考え、調べる計画を立てさせる。 ・大衆に、しかも買う人の好みに合わせて生産する自動車工場の工夫について新聞に書く内容を考える。 	1
<p>これからの自動車工業</p> <p>日本の自動車工業は立地条件や関連工場技術の開発によって生産を高めている</p>	追究	<ul style="list-style-type: none"> ○自動車工業は大量生産の仕組みが確立し、関連工場を持ち、国民生活の上でも、重要な産業であることをとらえさせる。 大衆に生産し、買う人の好みに合わせるために、どのように努力しているか個人ごとに調べる。 ・組立工場での生産の工夫を知る。 ・関連工場と自動車工場との結びつきを知る。S-P表 ・関連工場で働く人々の工夫を知る。 ・自動車工場ができたことによる地域の変化を知る ・大量生産と技術の開発について知る。 <p>残された問題について個人ごとに調べる。</p> <p>・これからの自動車生産のあり方について考える。</p>	2/8 3/8 4/8 5/8
	まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ○自動車生産の秘密を調べる新聞作りを通して、自動車工業のさかんな都市の学習をまとめさせる。 	8 1

5. 授業の実際

(1) 実践授業1(2/8)の結果から

本時の授業では、発言が多く、資料等をもとに自分の考えを述べるなど意欲的な姿が多くみられ全体的に活発な学習態度であった。しかし、事後のテストの結果は、表1のように、平均正答率59.5%であり、授業のねらいが十分達成されたとはいえない状態であった。このことから次のような内容が反省として考えられた。

① 話し合いによって授業が進んでいく過程で、新しい概念や用語などがごく一部の子どもにしか理解されておらず、その都度、内容や意味を確かめることが不十分であった。

② 子どもたちの資料解釈の力が十分でなく、発言の内容が観念的ではなかったかということ。